名古屋大学留学生相談室（740号室）活動報告

髙 木 ひ と み

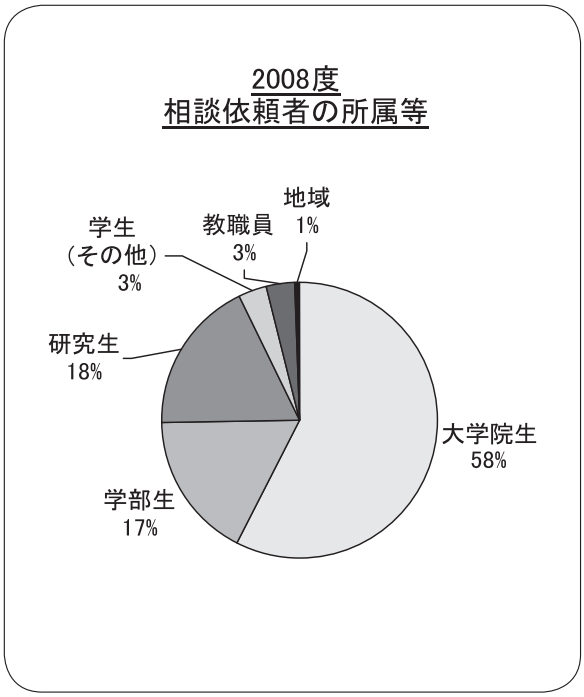
はじめに

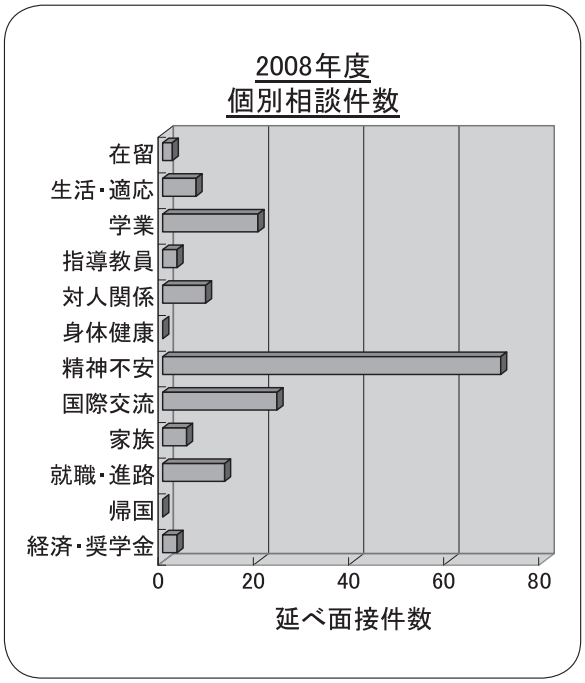
2008年度は留学生相談室の機能がさらに高まるようこれまでの個別相談や教育活動に加えて，新しい教育プログラムなどを他部局や他大学と連携し実施した。具体的には，学生相談総合センターと共同でこれまで行ってきた多文化間ディスカッショングループをさらに発展させ「多文化アートの会」という新しいプログラムを開発，留学生センターや近郊大学と連携し学生がキャンパスにおける国際交流のキーパーソンとして主体的に活動できるよう研修「グローバル人材育成ワークショップ」を実施した。さらに，今年度は国際企画室によるミネソタ大学との職員交流事業が始まり，職員研修開発の協力，教職員のための国際教育交流に関連するセミナー開催などに協力した。

本報告では，2008年度の活動を，１）相談活動，２）国際教育プログラム，３）セミナー，地域連携，教職員のための研修・教育活動の３つに分けて報告する。

Ⅰ．相談活動

2008年度は週に６～７コマの相談時間を設け，個別相談（アドバイジング／カウンセリング）を行った。延べ面接件数は157件であった。平均面接時間は約46分であり，言語使用の比率は，日本語は約35％，英語は約65％であった（面接件数には学生相談総合センター兼任相談員として対応した面接も含める）。昨年度に比べると，英語での面接件数が約1.6倍増えている状況である。学年別来談傾向としては，大学院生が最も多く（58％），次に研究生（18％），学部生（17％）で





あった。月別の来談傾向としては，10月の相談件数が最も多く（26件），続いて５月（19件），１月（17件）と多い傾向が見られた。

１．相談内容

個別相談の延べ面接件数157件のうち，相談内容は精神不安に関するものが最も多く（71件），次に国際交流・異文化理解（24件），学業（20件），就職・進路（13件）対人関係（９件），生活適応（７件），家族（５件）などの相談内容が多かった。

【精神不安】

精神不安のケースは，年々増えている傾向が見られる。理由として留学生相談室の認知が上がり，利用する学生が増えたことが考えられる。教職員や友人などが留学生相談室のことを知り勧められて利用する学生が増えており，さらに新入留学生対象のオリエンテーションにおいて留学生相談室の機能について知り，利用するケースも増えている。

相談内容としては，主に日本という異文化環境における生活からのストレス症状，大学院入試に向けた不安症状，博士論文研究によるストレスや様々な課題から精神不安定状態になり，停滞気味やうつ症状などが出ているケースが見られた。来日前から抱えている心理面での課題や精神症状をしめす学生も多く，必要に応じて，留学生相談室での継続的なカウンセリングを提供するとともに，保健管理室との連携により，包括的に学生を支援することにつとめた。

【学業】

学業に関する相談では，学部生においては，履修，学業と生活（アルバイト等）のバランスの取り方，学期末試験対策方法などの内容が多く見られた。また，大学院生においては，博士論文に対する意欲を持ち続けること，研究に対する自信を持つこと，指導教員との円滑なコミュニケーションを取っていくことなど，研究や指導教員との関係に関する相談内容が多い傾向であった。研究生については，大学院入試の準備方法，入試に対する意欲の維持などに関連する内容が多かった。

【対人関係】

対人関係においては，特に恋愛関係におけるパートナーとの関係作りについての相談が多い傾向であった。日本人学生と留学生，留学生同士での恋愛関係における文化の違い，関係作りの違い，コミュニケーションの違いなどから生じる課題について解決方法を面談の中で検討する機会が多かった。さらに，友人関係作り，グループの中での自分自身の立場や対応，研究室の中での関係作りなどに関する相談も多い傾向であった。対人関係の課題を抱える学生だけではないが，友人を作り，よりバランスの取れた学生生活を目指す留学生や日本人学生たちは多く見られるため，相談の中で，多文化間ディスカッショングループ等の国際交流プログラム（グループ・アプローチを用いたプログラム）を紹介し，参加したことによって，さらなる教育的，心理的な効果が見られるケースもあった。

【家族】

家族に関する相談では，家庭でのコミュニケーションの工夫，家族の精神不安な状態に対するサポート，家庭(子育て)と学業との両立，夫婦間の関係作りとコミュニケーションなどの内容が多い傾向であった。家族に関する相談では，特に家庭を持ち続けながら学業を継続している学生からの相談が多く，家庭と学業の両立について友人等に抱えている悩みを共有できず，来談する傾向が高い。来年度は，このような状況にある学生たちに対するサポートについても取組んでいけたらと考えている。

【進路・就職】

進路や就職については，履歴書やエントリーシートの書き方と添削，外資系企業への就職，就職内定後の不安や期待と準備，就職のための在留資格変更，他大学への転学，大学院への進学，進学する際の奨学金の延長などの内容が見られた。年々，留学生たちの日本での就職に対する意識が高まってきているように感じられる。卒業後，日本企業に就職した元留学生からの近況報告や転職の相談などもあった。さらに日本人学生からも英語による面接対応方法などの相談もあった。

【国際交流・異文化理解】

国際交流や異文化理解に関しては，日本人学生からの相談が多い。内容としては，学内の国際交流活動への参加方法，留学生と日本人学生の友人作りについて，海外での異文化体験(語学研修，留学)，外国語の

学び方など，多岐にわたる。留学生相談室で行っているプログラム紹介，他部局が行っているプログラムや海外留学室などの紹介など情報やガイダンスを提供した。さらに国際交流に関心の高い学生や希望者には，留学生相談室からの国際交流プログラムメール案内を定期的に配信している。

２．学生相談総合センター・保健管理室との連携

2008年度も，引き続き，保管管理室や学生相談総合センターとの連携に支えられながら，留学生相談活動を進めることができた。保健管理室で月に１回行われている東山症例研究会（ケース検討会）を通して，留学生の精神不安症状の対応を検討し，方向性を確認しながら，留学生を支援することができた。さらに，継続して学生相談総合センターの兼任相談員（多文化間カウンセリング）を担当していることにより，年々，学内の学生相談に関わる教職員とのネットワークが広がり，貴重な人的ネットワークのリソースを得ることができている。今年はさらに，学生支援 GP 推進室との連携も始まり，多文化間ディスカッショングループの新しい取り組みとして，「多文化アートの会」を開催することができた(詳しくは次章で説明する)。今後もさらに，連携を強化しながら，留学生や一般学生など幅広い教育・心理支援を行っていきたい。

Ⅱ．国際教育プログラム

キャンパスの国際化や多文化理解を促進する目的で行っている国際教育プログラムの運営や企画には，学生たちの力によるところが多く，2008年度は，留学生センターと共に，学生がより主体的にキャンパスの国際交流活動に関われるよう学生向けの研修「グローバル人材育成プログラム：国際交流コーディネーター養成セミナー」を企画し，２回実施した。さらに今年度から学生相談総合センターが行っている学生支援 GP「メッシュプロジェクト・メユット」との連携により，これまで開催していた多文化間ディスカッショングループを発展させ，「多文化アートの会」を提供し，アート活動を通して多文化交流を体験する機会を創出した。

１．多文化間ディスカッショングループ

2008年度の多文化間ディスカッショングループは，前期に３グループ，後期に２グループ，計５つのグループを開催し，参加者は計44名(留学生25名，日本人学生19名）であった。2005年度後期から始めたプログラムであるが，参加する学生たちの満足度やグループでの居心地が良い様子が見受けられ，継続して参加する学生，既参加者の勧めで参加する学生も多い。また

2008年度多文化間ディスカッショングループ

2008年度前期	
日本語グループ	2008年５月30日～７月18日，計７回 留学生５名，日本人学生４名，GP オーガナイザー１名，ファシリテーター２名 主なテーマ：自分の国・故郷，友人関係，恋愛，将来，異文化体験 アート活動：協同ブロック制作
英語グループ	2007年６月19日～７月17日，計５回 留学生４名，日本人学生４名，GP オーガナイザー１名，ファシリテーター２名 主なテーマ：海外旅行・海外滞在，将来，恋愛 アート活動：協同ブロック制作，アラビア書道
日本語・英語 併用グループ	2007年６月19日～７月17日，計５回 留学生４名，日本人学生５名，留学生相談室スタッフ１名，ファシリテーター２名 主なテーマ：将来，恋愛，外国語を話せるようになるには，好きなことば アート活動：協同コラージュ制作
2008年度後期	
日本語グループ	2008年10月31日～2009年12月19日，計８回 留学生６名，日本人学生４名，ファシリテーター２名 主なテーマ：将来の夢，伝説，LOVE，言葉，食べもの，夢
英語グループ	2008年11月４日～2009年１月13日，計８回 留学生６名，日本人学生２名，留学生相談室スタッフ１名，ファシリテーター２名 主なテーマ：学生生活，友人関係，旅行，恋愛，家族 アート活動：協同ブロック制作

相談活動の中で紹介されて参加し，後にファシリテーターなどを担当する学生などもいる。グループの運営は，既参加者がファシリテーターとしてのトレーニングを受け，毎週のスーパービジョン（グループ運営の振り返り）を受けながら進めてくため，ファシリテーターを担当する学生にとっても，継続的な学びの多いプログラムとなっている。今後の課題としては，グループでの言語使用面でのサポートと言語面でのファシリテーション方法の開発が考えられる。特に英語グループや英語・日本語併用グループでは，英語の語学能力の違いに，日本語グループでは日本語能力の違いに配慮した形で，参加学生がリラックスしながら，言語の違いをも乗り越えて語り合えるような場づくりや工夫できることを検討して行く必要がある。

今年度の新しい取組みとしては，前期には学生相談総合センターの学生支援 GP オーガナイザーの先生方が，多文化間ディスカッショングループに参加し，コラージュ，ブロック制作，アラビア書道などをグループの活動として実施してくださった。これらのアート活動を取り入れる新しい試みは，後期に共同で「多文化アートの会」(学生支援 GP「学生支援メッシュプロジェクト」)を開催することに繋がり，多文化アート活動とディスカッションを通して，幅広い学生たちの精神衛生面のサポートや交流を促すことができた（詳しくは，「名古屋大学学生相談総合センター紀要第８号，2008」を参照）されたい。

２．スモールワールド・コーヒーアワー

今年度のスモールワールド･コーヒーアワー（以下，コーヒーアワーとする）も学生ボランティアたちによって多大な発展を遂げることができた。2008年度は６回のコーヒーアワーを開催し，約400名の参加者があった。全体として，留学生が約６割，日本人学生が約４割ぐらいの参加が見られる。今年度の特徴としては，６月に開催した「ジャパンアワー（ミニ縁日）」では，白ゆり会の協力により折り紙コーナーを設けることができ，学生が折り紙作りを体験し，特に日本人学生たちが久しぶりに折り紙に触れることができリラックスしている表情が印象的であった。また11月に開催した「母国紹介」では，各国の留学生とコーヒーアワー学生ボランティアたちがペアになり，国や文化紹介などを協力しあいながら行った。さらにこの会では，名城大学でコーヒーアワーを開催しているグループが見学に来たため，コーヒーアワーづくりに関する質問を学生たちが受け，回答していく中で，自分たちのコーヒーアワーについても再確認している様子が伺えた。12月の「年賀状を書こう！」の会では，多文化アートの会の GP オーガナイザーの先生や学生たちがアラビア書道のコーナーを設けてくださり，触れられる文化の機会が増え，コーヒーアワーのプログラムが充実することにつながった。少しずつではあるが，様々なグループとの連携，留学生との協力開催などが始まっており，これらの連携が今後も進み，将来的には他のグループとの共催などの形でコーヒーアワーが育って行

2008年度後期　多文化アートの会

言語： 主に日本語を使用	2008年10月23日～12月18日，計９回 留学生６名，日本人学生11名，PA（プログラムアシスタント）２名，GP オーガナイザー２名，ファシリテーター１名 アート活動：アラビア書道，協同ブロック，コラージュ制作

2008年度スモールワールド・コーヒーアワー

日時	テーマ	参加人数
４／30	Welcome Coffee Hour	約100名
５／23	キャラクター・ハント	約70名
６／25	Japan Hour：ミニ縁日	約60名
10／17	自己紹介　2008	約70名
11／20	母国紹介：韓国・中国（香港）・アメリカ・オーストラリア	約60名
12／19	年賀状を書こう！	約40名
	計	約400名

くことを期待している。

今後の課題としては，コーヒーアワーを企画・運営する学生グループの中に留学生のメンバーも入りやすくなるよう工夫していきたいと考えている。現在は，ほぼ９割日本人学生で構成されており，留学に関心のある学生，国際交流に関心のある学生，留学から帰国して留学生支援に関心を持つ学生などがコーヒーアワー作りに励んでいる。学部生だけでなく，大学院生の学生ボランティアも多く，学生ボランティア同士の交流やミーティングの機会は，コーヒーアワー作りに関してだけではなく，学生生活において，多様な情報交換や相談の場となっており，新しい教育的な支援を生み出す場ともなっている。このような深いネットワークに留学生が入ることは，より留学生にとっても得るものがあるとも考えられ，またより留学生などのニーズに合ったコーヒーアワーを作っていく上でも，学生グループのメンバーにも多様な文化背景を持つ学生たちが入れるよう配慮していきたいと思う。

３．グローバル人材育成ワークショップ

留学生センターとともに，昨年度に開催した国際交流ワークショップを発展させ，「グローバル人材育成ワークショップ：国際交流コーディネーター養成セミナー」を開催した。このワークショップでは，名古屋大学で学ぶ留学生や日本人学生にとって，国際社会において指導的な役割を果たす人材として活躍するために必要な総合能力（特に多文化理解能力，異文化コミュニケーション能力，自分の意見を表現する能力，ディスカッション能力，キャリアプランニング能力）を身につけることを目指した。留学生センターが同窓会の大学支援事業を受け，６月には１泊２日の合宿研修を共催し，学生たちは参加者間の絆を深めながら，グローバルリーダーや国際交流を主体的に促進して行くことのできる資質や実践力を高めることができた。さらに２月には，名古屋大学だけではなく，名城大学や南山大学と連携してセミナーを開催することができ，国際交流など同じ関心を持つ学生同士のネットワークを広げ，能力を高めることができた。

４．オリエンテーション活動

本年度は昨年度に引き続き，新入留学生オリエンテーション，国際嚶鳴館でのガイダンス，留学生担当教員が配置されていない部局の新入生ガイダンスでの留学生相談室案内や国際交流活動紹介を行い，留学生相談室の周知を高めるとともに，異文化不適応などの予防につとめた。今年度の特徴としては，全学新入生オリエンテーションでは，午前と午後の時間帯で使用する言語（英語・日本語）を分けたことである。これ

「グローバルリーダーになろう！　第１回国際交流コーディネーター養成セミナー」
（名古屋大学同窓会大学支援事業）

日程	2008年６月28日～29日（１泊２日）
参加人数	20名
講師・ファシリテーター	近藤祐一，秦喜美恵，堀江未来，髙木ひとみ
プログラム内容	①アイスブレーキングゲーム ②異文化疑似体験セッション「エコトノス」 ③大学における国際交流のニーズとリソース（ブレインストーミング） ④グループによる国際交流イベントの企画，発表

第２回　国際交流コーディネーター養成セミナー
「もっともっと国際交流：名古屋・名城・南山大学でできること」

日程	2009年２月25日
参加人数	34名（名古屋，名城，南山大学）
ファシリテーター	堀江未来，髙木ひとみ
プログラム内容	①学生によるアイスブレーキングゲーム（名城，名古屋） ②フレームゲーム「キャンパスの国際交流で自分は何を目指すのか，または何を得たいのか？」 ③各大学における国際交流の取組み紹介（名城，南山，名古屋） ④グループによる国際交流イベントの企画，発表

により，留学生たちもオリエンテーションに参加する機会が２回増え，またオリエンテーションする側も一度に２つの言語を用いるのではなく，ひとつの言語に集中しながら伝えることができるようになったため，より良いオリエンテーションに発展した印象がある。今後も，理解しやすく，また必要な情報が効果的に提供できるオリエンテーションづくりを目指していきたい。

【新入留学生オリエンテーション】

全学新入留学生のためのオリエンテーションでのガイダンス

４／８　「異文化適応について」（午前：日本語・午後：英語）

10／18　「異文化適応について」（午前：日本語・午後：英語）

【国際嚶鳴館オリエンテーション】

国際嚶鳴館入居オリエンテーションでのガイダンス

４／11　「国際嚶鳴館での共同生活」（日本語･英語）

【新入生ガイダンス】

学部・研究科の新入生ガイダンスでの留学生相談室案内・国際交流活動紹介

４／８　情報科学研究科新入生ガイダンス

４／10　環境学研究科新入生ガイダンス

５．授業

2008年度も昨年度に続き，基礎セミナー，教養科目，NUPACE 授業（開放科目）を担当し，より多くの学生たちと関わりあいながら，学生たちの多文化理解やコミュニケーション能力を高めることにつとめた。

2008年度　前期：

①基礎セミナー「多文化社会を生きる」（代表:松浦まち子）

②NUPACE，開放科目（英語）「多文化環境での人間関係とコミュニケーション」（代表：堀江未来）

2008年度　後期：

①教養科目「留学生と日本」（代表：浮葉正親）

②NUPACE，開放科目（英語）「多文化理解とコミュニケーション」（髙木ひとみ）

６．チューター支援：チューターのためのランチミーティング

昨年度に引き続き，留学生センター相談室，短期留学部門と共にチューター支援の機会「チューターのためのランチミーティング」を２回（2008年７月３日，12月８日）開催した。毎回の参加者は，約20名前後である。前期に開催したランチミーティングでは，チューター活動の感想・意見集をもとにチューター学生同士の実際の活動について小グループでのディスカッションを実施した。後期は，チューター活動を通して起こりうる状況をもとに，ケーススタディーを小グループで行い，最後に全体でまとめた。チューターのためのランチミーティングは，チューター活動支援やチューター同士での情報交換の場となっているだけでなく，チューターの声やニーズを聞くことにより，教職員側がチューター活動を改善していく上で，必要な情報を得られる機会となっている。

Ⅲ．セミナー，地域連携，教職員のための研修・教育活動

【留学生と日本人学生のための合同セミナー】

11／29－30　日本学生支援機構（JASSO）東海支部「地球家族セミナー in a training camp」
JASSO 東海支部が開催した日本人学生と留学生の合同セミナーの企画から携わり，アイスブレーキング，グループ討論「自分らしく生きるとは」，レクレーションを担当した。名古屋大学からも多くの学生たちが参加し，１泊２日の研修の中で深いレベルでの気付きや心の交流の機会を提供することができた。

12／６　南山大学英語教育センター・ワールドプラザ Day（現代 GP 事業）
「もっともっと国際交流：南山大学でできること」（堀江未来・髙木ひとみ）

２／17　学生相談総合センター「ピア・サポート養成講座：留学生の諸問題・留学生とのつきあい方」

【教職員のための研修・教育活動〈SD・FD 活動〉】

１．留学生相談室スタディーグループ

昨年度から始めた留学生支援についての勉強会「留学生相談室スタディーグループ」を６回開催し，留学生相談や異文化コミュニケーション分野の文献講読を行った。勉強会の参加者は名古屋大学教職員，大学院生，近郊大学職員などである。文献を輪読しながら，日々の留学生支援の業務を振り返り，留学生相談について学びを深めている。勉強会を通して築いたネットワークによって，国際交流に関わる学生グループの活動を見学しあったり，学生対象のセミナーなども名城，南山，名古屋大学で実現できるようになった。さらに業務に対する何気ない質問やコメントをしあえるような場でもあり，懇親会なども実施しているため，教職員のリラクゼーションの場にもなっている。今後も勉強会としての機能，ネットワーキングの機能，教職員のセルフケアを維持する機能を大切にしながら開催する予定である。

２．ミネソタ大学との職員交流事業への協力・セミナー開催

今年度から国際企画室の事業としてミネソタ大学との職員交流が始まった。名古屋大学職員のミネソタ大学派遣，ミネソタ大学職員の名古屋大学受け入れに協力するとともに，2008年10月10日にはミネソタ大学から来日したアリサ・イーランド博士を講師として，国際企画室・留学生相談室・JAFSA と共同で「ミネソタ大学における国際化推進と留学生支援」セミナーを開催した。学内外から約40名の参加があった。第１部は，ミネソタ大学の留学生支援の取り組みについて焦点が当てられた。特に，留学生が抱える課題について，１対１の個別対応の相談だけではなく，教育的アプローチとして，オリエンテーションをはじめとする様々なプログラムを実施することによって，問題の予防や課題の低減につながることが強調された。第２部では，世界の国公立大学の中で３位のランキングを目指すミネソタ大学の国際戦略や取り組みについての講演がなされた。

３．その他の SD・FD 活動

・名古屋高等教育研究センター
英語で授業シリーズ①「大学教員のための教室英語表現300」（株式会社アルク）
英語で授業シリーズ②「大学生のための教室英語表現300」（株式会社アルク）

・JAFSA（国際教育交流協議会）「JAFSA FORUM in KOBE」（７／20－21，神戸）
「魅力あるアイスブレーキング」分科会担当（髙木ひとみ・堀江未来）

・第10回 Minnesota Counseling Summer Institute（８／６－16，ミネソタ大学）
“Empowering Students through International Peer Support Programs: Journey from University of Minnesota to Nagoya University”（髙木ひとみ）

おわりに

本年度は名古屋大学とミネソタ大学との職員交流が始まり，筆者自身，ミネソタを訪問する機会が増え，ミネソタ大学の留学生支援の取り組みに対して，さら

2008年度　留学生相談室スタディーグループ

第11回	５月20日	「多文化社会の人間関係力：実生活に生かす異文化コミュニケーションスキル」八代京子・山本喜久江（三修社）第４章の輪読会
第12回	６月17日	「多文化社会の人間関係力：実生活に生かす異文化コミュニケーションスキル」八代京子・山本喜久江（三修社）第７章の輪読会
第13回	７月15日	「留学生担当者のためのカウンセリング入門」（JAFSA ブックレット，アルク，井上孝代著）第１章の輪読会
第14回	11月11日	「ミネソタ大学における国際業務関連の職員研修報告」古田知美氏
第15回	12月16日	「留学生担当者のためのカウンセリング入門」（JAFSA ブックレット，アルク，井上孝代著）第２章の輪読会
第16回	２月17日	「留学生担当者のためのカウンセリング入門」（JAFSA ブックレット，アルク，井上孝代著）第３章の輪読会

なる理解を深める機会を得た。同大学は，筆者が2002年から2005年にかけて，大学における留学生相談活動の基本理念と実践方法を学んだ場所であり，本報告で記した活動の多くは同大学の活動からヒントを得ている。

ミネソタ大学と名古屋大学の大学間交流を通じて，ミネソタ大学における留学生支援の特徴としてさらに見えてきた点は，「教育的アプローチを重視していること」，「留学生が留学先で適応するだけではなく，主体的に活動できるよう教育環境を創出していること」，「学生が国際交流や留学生支援に関わったり，リーダーシップを発揮したりする場面においては，大学側からの研修やフォローアップ（指導・助言）が充実していること」，「教職員が学生から学ぶ姿勢を大切にしていること」などがあげられる。ミネソタ大学での取り組みをそのままの形で名古屋大学に導入することは，学生支援のあり方には文化差も存在あるため，名古屋大学の文脈に合う形を見つける必要があるが，ひとつの大きな発見は，留学生に対して適応を支援するだけではなく，留学生が持続可能なリーダーとして活躍できるよう育成している点であった。日本において留学生30万人計画が進む中，留学生教育や留学生を受け入れる理念をとらえなおし，大学において，留学生や一般学生，双方が主役となり学生生活が送れるような教育環境の創出に今後も力を注いでいきたいと考えている。